② ①の試料溶液１mLに硫酸亜鉛飽和溶液４mLを加えるとき、少量の沈殿(プロテオース）を生じる。
③ ①の混液をろ過し、ろ液１mLに水３mL及び臭素試液４滴を加えるとき、赤紫色を呈する。
乾燥減量　7.0%以下（0.5g，105℃，恒量）
強熱残分　15.0%以下（0.5g）
窒素含量　10.0%以上（105℃で恒量に乾燥した後、窒素定量法によるものとする。）

ペプトン、獣肉製　本品は、帯赤黄色～褐色の粉末で、特異な臭いがあるが腐敗臭はない。水に溶けて黄褐色の弱酸性の溶液となる。エタノール及びエーテルには溶けない。
窒素含量　14.0～16.5%
乾燥減量　７%以下
強熱残分　５%以下（0.5g）
凝固性たん白質　本品の水溶液（１→70）を沸騰するまで加熱するとき、沈殿を生じない。
プロテオース　本品の水溶液（１→10）５mLに硫酸亜鉛液（50→35）20mLを加えるとき、僅かに軽い析出物が生じる。

ペルオキソ二硫酸カリウム　$K_2S_2O_8$〔特級〕

ベルトラン試液A　硫酸銅のきれいな結晶40g（39.5～40.4g）を水に溶かし、1,000mLとする。共栓瓶にほとんど全満して保存する。

ベルトラン試液B　酒石酸カリウムナトリウム200g（199.5～200.4g）及び水酸化ナトリウム150g（149.5～150.4g）を水に溶かし、1,000mLとする。ゴム栓をして保存する。

ベルトラン試液C　硫酸第二鉄（過マンガン酸カリウム液を還元してはならない。)50g（49.5～50.4g）を適量の水に溶かし、硫酸200mLを加え、更に水を加えて1,000mLとする。

ベルトラン試液D　過マンガン酸カリウム５g（4.5～5.4g）を水に溶かし、1,000mLとする。
標定　シュウ酸アンモニウム0.25g（0.245～0.254g）を水100mLに溶かし、硫酸２mLを加え、60～70℃に加温した後、過マンガン酸カリウム溶液を滴定する。滴定量をamLとすれば、本液１mLは、Cu 0.2238/a gに相当する。

ベンゼン　C_6H_6〔特級〕　ビタミンD定量に用いるベンゼンは、一般試験法のビタミンD定量法に定めるところによるものとする。

ベンゼン、残留農薬試験用

ホウ酸　H_3BO_3〔特級〕

ホウ酸ナトリウム　$Na_2B_4O_7・10H_2O$〔ホウ酸ナトリウム（ホウ砂)、特級〕

ホウ酸ナトリウム、pH測定用〔ホウ酸ナトリウム（ホウ砂)、pH測定用〕

ホウ砂　ホウ酸ナトリウムの項に定める。

ポリソルベート20　$C_{58}H_{114}O_{26}$　ソルビトール及び無水ソルビトールの水酸基の一部を主としてラウリン酸でエステル化し、エチレンオキシド約20分子を縮合させたものである。微黄色～黄色の液体で僅かに特異臭を有する。比重：約1.1　粘度（25℃）：300～500mPa・S

ポリソルベート80　〔日局〕

ポリビニルアルコール　$(-CH_2CHOH-)_n$　白色～微黄色の小粒又は粉末で、水に溶け、熱水には溶けにくい。エタノール及びエチルエーテルにほとんど溶けない。
溶状　本品0.5g（0.45～0.54g）に水100mLを加え、よくかき混ぜるとき、溶液は、澄明である。
けん化度　78～82mol%
本品約0.5gを0.001gの桁まで量り、その数値を記録し、300mLの共栓三角フラスコに入れ、水100mLを加え、12時間以上放置して溶かす。この溶液に0.2mol/L水酸化ナトリウム試液25mLを全量ピペットを用いて加え、常温で２時間放置する。次に、0.1mol/L硫酸試液25mLを全量ピペットを用いて加え、よくかき混ぜた後、0.1mol/L水酸化ナトリウム溶液で滴定する（指示薬　フェノールフタレイン試液２滴)。この場合において、滴定の終点は、溶液の赤色が消えたときとし、その滴定量をamLとする。同様の方法で空試験を行い、その滴定量をbmLとする。

$$\text{けん化度（mol\%）} = 100 - \frac{44.05A}{60.05 - 0.42A}$$

$$A\text{（\%）} = \frac{0.6005 \times (a - b)\, f}{\text{試料の量g}}$$

f：0.1mol/L水酸化ナトリウム溶液のモル濃度係数

ポリビニルアルコール試液　ポリビニルアルコール20.0g（19.95～20.04g）を約800mLの水に懸濁し、かき混ぜながら75～80℃で約１時間加熱する。放冷した後、必要ならばろ過し、水を加えて1,000mLとする。

ホルマリン　ホルムアルデヒド液の項に定める。

ホルマリン・炭酸マグネシウム試液　ホルマリンに炭酸マグネシウムを加え、振り混ぜ、飽和させた後、ろ過し、水で４倍容量とする。

ホルムアルデヒド液　HCHO〔特級〕

マイヤー試液　塩化第二水銀1.358g（1.3575～1.3584g）に水60mLを加えて溶かす。別に、ヨウ化カリウム５g（4.5～5.4g）に水10mLを加えて溶かす。両液を混和し、水を加えて100mLとする。

マグネシア試液　塩化マグネシウム5.5g（5.45～5.54g）及び塩化アンモニウム７g（6.5～7.4g）に水65mLを加えて溶かし、アンモニア試液35mLを加え、密栓した瓶に入れ、数日間放置してろ過する。溶液が澄明でないときは、使用前にろ過する。

マグネシウム末　Mg〔特級〕

マッキルベイン緩衝液、酵素力試験用　クエン酸21.02g（21.015～21.024g）に水を加えて溶かし、1,000mLとする。その溶液にリン酸一水素ナトリウム試液を加えて所定のpHに調整する。

マラカイトグリーン　$C_{52}H_{54}N_4O_{12}$　〔日局〕

マレイン酸　$(CHCOOH)_2$〔特級〕

無アルデヒドエタノール　エタノール、無アルデヒドの項に定める。ビタミンD定量用の無アルデヒドエタノールは、一般試験法のビタミンD定量法に定めるところによるものとする。

無水エタノール　エタノール、無水の項に定める。

無水クエン酸　クエン酸、無水の項に定める。

無水ケイ酸　SiO_2〔特級〕

無水酢酸　$(CH_3CO)_2O$〔特級〕

無水酢酸ナトリウム　酢酸ナトリウム、無水の項に定める。

無水酢酸・ピリジン試液　無水酢酸25g（24.5～25.4g)に無水ピリジンを加えて100mLとする。用時調製する。

無水炭酸カリウム　炭酸カリウム、無水の項に定める。

無水炭酸ナトリウム　炭酸ナトリウム、無水の項に定める。

無水トルエン　トルエン、無水の項に定める。

無水ピリジン　ピリジン、無水の項に定める。

無水硫酸銅　硫酸銅、無水の項に定める。

無水硫酸ナトリウム　硫酸ナトリウム、無水の項に定める。

無水リン酸一水素ナトリウム　リン酸一水素ナトリウム、無水の項に定める。

無ヒ素亜鉛　亜鉛、無ヒ素の項に定める。

ムレキサイド色素　$C_8H_8N_6O_6$　金属性光沢を有する赤紫色の結晶で、吸収の極大波長は、520nmである。水中で深紫色を呈し、アルカリ溶液で深青色を呈する。